

輸出 | 重点輸出国・地域を設定し、拠点を整備 国内では多収・低コスト米の輸出用産地づくりも

取り組み目標

- 輸出の拡大
- 海外営業拠点の整備
- 海外での取り組み
- 国内での取り組み
 - 輸出用産地づくり
 - 輸送戦略
(品質保持技術の実用化・共同物流による低コスト化)

進捗状況

- ✓ 2017年度のJAグループの輸出実績は160億円。前年比129%に拡大
- ✓ **重点輸出7カ国・地域(香港、シンガポール、タイ、英国<欧州>、中国、台湾、米国)を設定。**18年4月に全農香港事務所、8月に同台湾事務所を開設。タイにも人員を配置。
- ➡ ✓ **ブルガリアで全国農協食品(株)が日本産米による冷凍寿司を製造する合弁会社を設立。**中国では、IT企業のアリババと連携してeコマース(インターネット上で行われる商品・サービスの取引・決済)で日本産米を販売。**米国では日本から輸出した和牛を加工する合弁会社を設立。**香港ではeコマースで青果物などを販売。
- ✓ 米の多収・低コスト栽培の実証試験を**2018年度は5県9JA135ヶ**で実施。
- ✓ CAコンテナでの鮮度保持輸送実証試験を実施中。年間35コンテナを計画



18年4月に香港事務所を開設

■ 米の多収・低コスト栽培の実証試験

5県9JA 135ヶ